



久慈農業改良普及センターだより

普及センター情報 261 号
令和 3 年 10 月 25 日発行
久慈農業改良普及センター
経営指導課：0194-53-4989
産地育成課：0194-66-9683
地域指導課：0194-66-9684
FAX：0194-53-5009

～ 掲 載 内 容 ～

ページ

1. 久慈地域の情報

○産地情報

・・・ 1

米価下落に負けない！集落営農の取り組み

～久慈市農事組合法人宇部川ファーム～

○農業用廃プラスチック回収のお知らせ

・・・ 4

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、農業用廃プラスチック適正処理のため、組織的な回収を推進しています。回収期間は 12 月 6 日（月）～12 月 10 日（金）の 9 時～15 時です。ぜひご利用ください。

○普及現地情報

・・・ 5

- ・宇宙から帰ってきた“寒じめほうれんそう”の種を園児が播きました！
- ・第 2 回久慈地域ほうれんそう若手生産者研修会を開催しました！
- ・新たな園芸品目の栽培にチャレンジ！久慈地方農家見学会

○電子メールを活用した農業情報の発信を始めます！

別 添

県では、農作物技術情報、台風や気象災害などへの注意情報、病害虫に関する情報、スマート農業に関する情報などタイムリーに周知したいお知らせを、11 月 12 日からメールにて情報発信を開始します。

○産直レシートキャンペーン

別 添

久慈地域産直レシートキャンペーンが開催されます！皆様奮ってご参加ください！

○就農相談会

別 添

近所やお知り合いの方で、就農を考えている人はいませんか？就農相談会は毎月第 2 水曜日に開催していますので、身近に就農を考えている人がいましたら、お声がけください！

2. お知らせ

今月のお知らせはありません。



米価下落に負けない！集落営農の取り組み ～久慈市 農事組合法人宇部川ファーム～

宇部川ほ場整備地区について

久慈市と野田村にまたがる宇部川地区は、狭小で湿地という劣悪な条件から、耕作放棄地が多い状況でした。東日本大震災後に津波被災農地約 15ha を含む、受益面積 80ha、受益者 257 名を対象に、平成 24 年度から宇部川地区ほ場整備事業が開始され、平成 27 年より一部で営農を開始し、令和 2 年度に完工しました。

法人組織としての概要

- 設立の経緯 -

この農地を効率的に運営するため、普及センターでは、農地の利用調整組織と営農組織の 2 体制による集落営農を提案しました。その結果、圃場整備受益者全員から成り利用調整を行う「宇部川地区営農組合」が、平成 24 年に設立されました。次に営農を行う 17 名で構成された「宇部川地区農業生産組合」が設立され、平成 26 年には、6 名で構成される「農事組合法人宇部川ファーム」（以後宇部川ファームと記載）に移行しました。

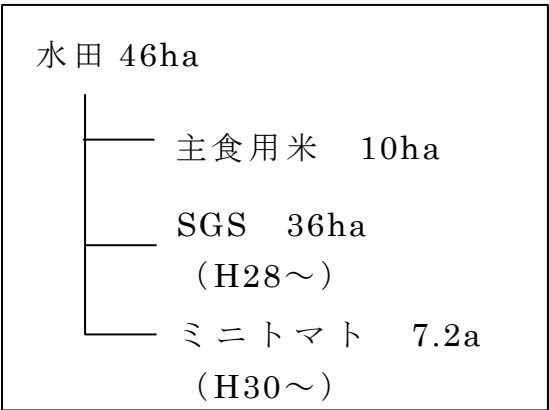
同時に、農地中間管理事業の集積協力金を活用し施設や機械の整備を進め、宇部川ファームによる平成 27 年からの営農を開始することができました

- 営農の概要 -

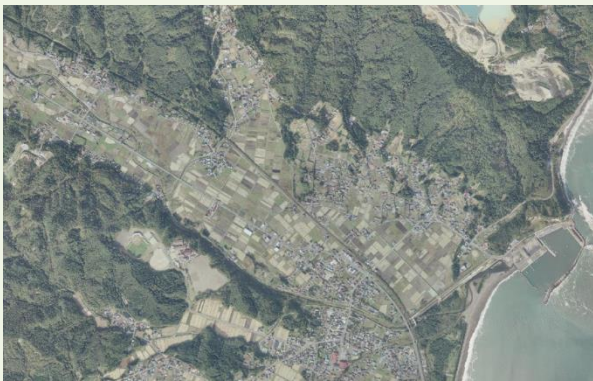
現在の宇部川ファームは、構成員は 5 名、従業員（正社員、臨時社員、パートタイマー含む）は 7 名となっています。宇部川地区の受益農地 80ha のうち 46ha で

営農を行っており、主食用米に加え、粳米サイレージ（以後 SGS と記載）を組み合わせ、さらにはミニトマトの生産も行っています。

県北沿岸地域には銘柄米が少ないことから、営農開始当初から、主食用米とともに飼料用米の生産に取り組んできました。ほ場整備の進行とともに、経営面積が拡大したため、育苗施設不足の解消や作業分散に向け、県北地域では事例の少ない直播栽培にも取り組んでいます。



宇部川ファームの営農概要 (R3)



基盤整備前



基盤整備後



SGS は短角牛の嗜好性もバッチリ！



さらなる耕畜連携に向けて稲わら収集のデモ試験を行いました (R2)

畜産分野との連携

経営面積拡大にあたり、法人の収支計画・資金計画等に基づき検討を重ねた結果、平成 28 年から、既存施設で取組が可能である SGS に転換し生産を増やしています。現在は、SGS36ha のうち 24ha を直播栽培で取り組んでいます。普及センターでは、県北広域振興局農政部や久慈市等と連携し、技術支援や供給先の確保に取り組み、現在では山形町の短角牛生産者等 16 名に供給しています。

また、さらなる収益性向上に向け、肉用牛肥育が必要とする稲わらの地域内供給に今年度から本格的に取り組むこととし、稲わら収集のためのロールベアラを

導入しました。

なお、稲わらの搬出による有機物不足が懸念されることから、地元の豚ふんペレットを活用し地力向上に加えコスト低減による収益性向上も狙っていきます。



適切な栽培管理に向け、従業員の方とミニトマトの生育調査を行っています。



実績検討会では、次年度の栽培計画に係る情報交換をしています。

高収益品目の導入

平成 30 年から、さらなる収益性向上に向け、水稻育苗用ハウスを活用した全農式トロ箱養液栽培システム「ういず One」によるミニトマト栽培を始めました。

収穫・調製作業には地域の方を雇用し、パック詰め作業には農福連携による雇用を導入することで、地域住民らの活躍の場を創出しています。

労働環境の整備

事業の拡大・強化に伴い、若い担い手が働きやすい環境の整備を進めています。令和元年度からいわて農業経営相談センターの専門家派遣事業を活用し、労働条件や賃金体系等の明確化や見直しを行い、就業規則を整備しました。その結果として、令和 3 年 4 月には正社員を 1 名採用しています。

今後の展望

宇部川ファームは、このように主食用米のみに頼らない経営基盤の強化を進めてきた結果、本年度の米価下落の状況においても、安定した収入が得られる見通しです。

今後は、高規格ハウスの整備や新たな園芸品目の導入などにより事業の拡大・強化を図り、若い担い手が魅力を感じる営農を進める方針です。

久慈農業改良普及センター 吉田 優里

農業用廃プラスチック回収のお知らせ

農業用廃プラスチックは適正に処理しましょう！
～農業用廃プラスチック適正処理事業～

ハウスビニルやラップフィルムなどを野焼きすることや、無許可で埋め立てすることは、法律で禁止されています。

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、農業用廃プラスチックを適正に処理するため、回収事業を行いますので、是非ご利用ください。なお、チラシは後日 JA から組合員へ配布されますので、そちらを確認してください。



回収場所

J A 新いわて久慈営農経済センター
野菜集出荷所（山形、二ツ屋、種市、野田、普代）



対 象

農業用塩化ビニルフィルム、農業用ポリエチレンフィルム、遮光幕、肥料袋、畜産用ラップフィルム、育苗ポット、苗箱



方 法

7種類に分別し、回収場所へ搬入する。



期 間

12月6日（月）～12月10日（金） 9時～15時



処理料金

1 kg あたり 75 円



問合せ先

J A 新いわて久慈営農経済センター（0194-52-1318）



宇宙から帰ってきた“寒じめほうれんそう”の種を 園児が播きました！

普代村の将来を担う“普代はまゆりこども園”の園児6名が、国際宇宙ステーションから帰還した寒じめほうれんそうの種子を10月13日に播種し、栽培を始めました。

普代村は、復興支援への感謝を宇宙から伝える“東北復興ミッション2021”に参加し、宇宙へ送り出した種子を活用した農業体験プログラムを開始しました。今回の作業体験では、地域農業の若き担い手である中村駿人氏の指導と普及センター職員の作業補助を受け、園児は種一粒一粒に「大きくなれ」と願いを込め、中村氏の畑とポットの両方に播きました。

次回の体験は令和4年1月の収穫作業となり、播種から収穫、食育までの一連の体験を行う予定です。園児は、持ち帰ったポットの種が生育する姿を日々観察しながら、収穫できる日をワクワクしながら待っています。村では、この農業体験を次年度以降も継続することとしており、普及センターも農業への理解醸成に向けて一緒に取り組んでいきます。



▲中村氏（中央左）へあいさつする園児の様子。大きい声で気合の入ったあいさつでした。



▲ポットへ播種する様子。中村氏が播き方の指導を行いました。

普及現地情報
令和3年10月21日
久慈農業改良普及センター
記述者 菅野 千聖

第2回久慈地域ほうれんそう若手生産者研修会を 開催しました！

管内のほうれんそう若手生産者の栽培技術向上や交流促進を目的に、久慈地方農業農村活性化推進協議会が第2回研修会を10月12日に開催し、生産者や関係機関の担当者など14名が参加しました。

県病害虫防除所の職員が講師となり、農薬の適正使用や、ほうれんそうの病害虫防除などについて講義しました。

「夏期の栽培管理で困ったこと」をテーマに実施した意見交換では、「害虫の効果的な防除」、「夏期に適した品種の選定」といった話題が出され、講師や普及員からアドバイスがありました。

今後は、意見交換でも要望のあった品種選定をテーマに2月に第3回研修会を開催する予定です。



お互いの栽培の悩みについて意見交換

普及現地情報
令和3年10月21日
久慈農業改良普及センター
記述者 川嶋 美紀

新たな園芸品目の栽培にチャレンジ！久慈地方農家見学会

ほうれんそうに次ぐ新たな園芸品目を栽培する生産者を確保するため、久慈地方農家見学会を10月13日に開催し、生産者ら11名の参加がありました。

この取組は、就農希望者や新品目の栽培を考えている生産者を対象に久慈地方農業農村活性化推進協議会の主催で毎年開催しているものです。令和3年度は、平成28年に就農して、中玉トマトといちごを栽培している生産者と、ほうれんそう等のほかズッキーニや山菜等、多品目を栽培し、令和3年の春から半促成アスパラガス栽培を始めた生産者を訪問しました。

参加者はハウスを活用した園芸品目の生産現場を実際に見て、それぞれの園芸経営に対する考え方を直接聞くことができ、有意義な見学会となりました。すでに新たな園芸品目に挑戦しようという意欲が高まった方もおり、普及センターは栽培に向けた支援を続けていきます。



管内では珍しいハウスでのアスパラガス栽培の説明に聞き入る参加者

～いわてアグリベンチャーネット掲載記事の紹介～

いわてアグリベンチャーネットでは、毎月、各地域の農業情報をお知らせしています。

【9月分の掲載記事】

○産地紹介：《久慈》産地情報「米価下落に負けない！集落営農の取り組み

～久慈市農事組合法人宇部川ファーム～」

○人物紹介：《一関》人物紹介「地域の水田営農を牽引するチャレンジャー 渡邊克洋さん」

○『普及活動年報』 県内各地域の普及センターの取組を紹介します。

下記の URL、または右の QR コードからご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/index.html>



久慈農業改良普及センターfacebook 公開中！

久慈寒次郎が、最新の情報や、HOT な情報をお届けします。

下記の URL、または右の QR コードからご覧ください。

<https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/>

